2 教育課程

2.1 教育方針

2.1.1 教育目標

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力を授け、現代社会の諸問題に応答できる人の育成を教育目標として掲げています。

2.1.2 教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、新しい文化を創造する高度な表現力修得を目指し、体系的に専門性を獲得するための実践的かつ領域横断的な科目を配置し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業を開講するとともに優れた研究指導を行います。

- 高度な表現者としての素養を身に付けるとともに、社会の多様な要請に対応した幅広い知識と実践力を修得するため、プロジェクト科目及び研究科目を設置します。
- 自らを批評し研究成果の社会的意義を問うための総合科目を設置します。
- 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶために専門科目及び制作演習科目を設置します。
- 問題発見力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力など、研究において必須となる汎用的な能力を育成するため導入科目を設置します。

2.1.3 学位授与方針(ディプロマポリシー)

情報科学芸術大学院大学は建学の理念に基づき、科学技術と哲学・思想的視野をともなう新しい文化を創造する高度な表現者の育成を目標とし、その目標のために編成されたカリキュラムにおいて、所定の単位を取得することに加え、論文審査あるいは作品・論文審査、及び最終試験を合格した学生に修了を認定し、学位を授与します。その際、

- 専門性を有した自立したアーティスト・デザイナー・エンジニア・研究者・教育者として、必要な能力を身に付けたか。
- 高い倫理性と強い責任感を意識し、未来の人間の生き方、幸福を追求しながら、研究が現代社会の諸問題に対する応答として成果を得ることができたか。
- 研究領域によらず様々な分野を専門とする人々とも互いに積極的に関わりあい、その交流の中から生み出される「新しい知」のあり方を身に付けたか。

が問われます。

2.2 教育課程の体系

本研究科は、情報テクノロジーの進展によって、文化・産業・社会の各領域が密接にかかわり合い、新しい関係が生まれつつある時代の新たな教育研究機関として創設されました。ここでは、物や情報を作り出すことで社会と絶えずかかわり合う「制作の知」の追求を教育と研究の根幹に捉えています。様々な表現活動において、これまで論理的に語られることの少なかった暗黙の知について、表現者自らが社会との関わりの中から意識的に表出し、様々な分野への活用を目指しています。「メディア表現」とは、そうした「知」の在り方を最先端の情報技術を用いた表現活動を通じて情報やコミュニケーションに形を与える作業です。

本研究科は6つの教育課程を実践しています。その中でもプロジェクト科目、研究科目、総合科目の3つはユニークな教育的特性を持っています。まず、個人、グループ社会という構成を意識した教育手法を取り入れ、特色のひとつとしてプロジェクト科目を教育研究の中心に置き、実践的な取り組みを通して現在とその先にある未来を見据え、社会へ発信・貢献することを目指していきます。研究科目は、そうしたプロジェクト科目で実践した結果を自身の研究としてまとめるため、研究活動に対する課題解決に必要な方法等を習得するゼミ形式によるチームティーチングを特色とする科目です。さらに総合科目は、プロジェクトや研究の成果ついて、自ら批評し研究成果の社会的意義を問うことを施行します。

一方、プロジェクトや研究を実践する為に必要とする専門的な知識を習得するために専門科目を設けています。さらに、プロジェクトや研究を実現する為の技能に関する知識の習得としての演習科目を設けています。また、本研究科は学部を持たない、多分野の学問や経験を有する学生が入学することから、本研究科で研究を進める上で必要となる共通基盤として習得すべき事項をまとめた導入科目を設け、早期に幅広い知識や技能の習得と研究目標に向けた足掛かりを築けるようにしています。

メディア表現として活動するために必要となる科目の選択は、学部において取得した知識や、今後目指そうとする領域から、研究手法や適性、修了後の進路も含め適切に判断しバランスの良い履修をしてください。また、科目履修の判断にあたっては、各領域の経験豊富な教員たちと積極的に話し合いを行い、皆さんにとって最良の科目を履修してください。